

## マツダ、ドライバー異常時対応システムが「市村産業賞 功績賞」を受賞

マツダ株式会社(以下、マツダ)は、第55回市村賞(主催:公益財団法人市村清新技術財団)において、同社の先進安全技術「ドライバー異常時対応システム(DEA<sup>\*1</sup>)」が「市村産業賞 功績賞」を受賞したことを、本日公表しました。

市村賞は、科学技術の進歩や産業の発展に貢献した技術開発者を表彰するもの<sup>\*2</sup>で、同団体による贈呈式は、2023年4月17日(月)、帝国ホテル東京(東京都千代田区)で行われる予定です。

今回、マツダが受賞した「市村産業賞 功績賞」は、優れた国産技術を開発することで、産業分野の発展に貢献・功績のあった技術開発者を対象としており、受賞対象開発テーマであるドライバー異常時対応システムは、クルマが運転者の体調を見守り、安全を支える技術です。



DEAを搭載する「MAZDA CX-60」

マツダは、事故を誘発したドライバーの発作や疾患の症例を分析、人体や脳のメカニズムを理解・モデル化することで、意識喪失<sup>\*3</sup>などの体調変化を高精度に検知することを可能にしました。これにより、一般道においても迅速なドライバー異常の自動検知から車両の減速停止ならびにヘルプネット自動接続による緊急通報<sup>\*4</sup>を行うことで、早期のドライバー救命とともに、周囲の歩行者や車両への被害軽減を図ります。

マツダは、同システムを先進安全技術「DEA」として、昨年発売したクロスオーバーSUV「MAZDA CX-60」<sup>\*5</sup>国内向けモデルに採用、同システムに関する最新の国連協定期則に国内で初めて対応しています<sup>\*6</sup>。マツダは今後も、この安全技術の機能や搭載車種を拡充していく予定です。

マツダは今後も、高度運転支援技術を活用してドライバーを見守ることで、運転できる楽しさと自由な移動を生涯にわたり支援し、お客さまの生活や生きがいを守っていくことを目指してまいります。

### 【受賞概要】

名称: 市村産業賞 功績賞  
テーマ: 「運転者の体調を見守り安全を支えるドライバー異常時対応システム」  
受賞者: 以下3名がすべての関係者の代表として受賞します。  
栃岡 孝宏(とちおか たかひろ)  
中島 康宏(なかしま やすひろ)  
岡野 英紀(おかの ひでき)

<sup>\*1</sup> DEA: Driver Emergency Assist

<sup>\*2</sup> 「市村産業賞」「市村学術賞」「市村地球環境産業賞」「市村地球環境学術賞」の4つの分野で表彰

<sup>\*3</sup> 心臓、脳の血管、てんかんなど脳神経や低血糖等の疾患によるもの

<sup>\*4</sup> ヘルプネット自動接続による緊急通報には別途コネクティッドサービスの契約が必要になります(日本国内)

<sup>\*5</sup> e-SKYACTIV D、SKYACTIV-D 3.3、e-SKYACTIV PHEV、SKYACTIV-G 2.5 搭載モデル

<sup>\*6</sup> ドライバー異常時対応システムに関する最新(2022年11月時点)の「国連協定期則第79号第4改訂」を踏まえた道路運送車両法の改正保安基準に適合し、国土交通大臣より型式指定を取得